

## 特集：2011年度日本数学会出版賞受賞者のことば

勉誠出版，東アジア数学史研究会編，代表：岡本和夫

(川原秀城／渡辺純成／佐藤賢一／安大玉)「関流和算書大成」

本書は、佐藤賢一氏による和算家戸板保佑の研究成果を基礎に、『関算四伝書』全 510 冊のうち所在不明である 4 冊を除く、すべての陰影を公表したものです。佐藤氏と川原秀城氏、渡辺純成氏、安大玉氏に岡本和夫が代表として加わり、東アジア数学史研究会として、科学研究費補助金を受けることができ、全巻勉誠出版より刊行されました。この仕事の完成には 4 年以上かかりましたが本年初めに完結することができました。

本書のもとになっている『関算四伝書』は、18 世紀末にできたものですが、東アジア数学文化の流れの中で、当時の数学の形を提示しているものである、と捉えています。数学の形は、数学研究の発展に支えられていることはもちろんですが、社会や文化という、もっと大きな枠組みの結果として作られているものである、と思います。私個人の興味と関心はこの点にあります。

『関算四伝書』は宮城県図書館に所蔵されている資料です。本書の刊行が完結して間もなく東北地方は未曾有の災害に見舞われました。この機会をかりて、直接、間接に被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。

このような時に、「関流和算書大成」の刊行が日本数学会賞出版賞を頂くことになり、東アジア数学史研究会のメンバー一同は率直に喜んでおります。可積分系の研究者である私にとって、何か象徴的な出来事のように思えてなりません。時代を超えた数学の価値を表しているようにも思えます。本書が今後の研究に生かされていくことを期待しております。ここから新しい研究の視点が生まれるならば、それが今回の出版の一番大きな成果となるのではないのでしょうか。

最後にはなりましたが、今回の受賞に当たりまして、お世話になった多くの皆様、とりわけ宮城県立図書館、日本学術振興会、勉誠出版社、そして日本数学会に改めて深甚の感謝を申し上げます。

岡本和夫